

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	→ 1	1	百日咳	↗ 1	0
RSウイルス感染症	↘ 19	25	ヘルパンギーナ	↘ 66	110
咽頭結膜熱	↘ 30	52	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↘ 5	9
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↘ 32	48	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↘ 145	224	流行性角結膜炎(はやり目)	↗ 12	11
水痘	↗ 38	26	細菌性髄膜炎	↗ 1	0
手足口病	↘ 80	125	無菌性髄膜炎	↗ 3	1
伝染性紅斑(りんご病)	↘ 0	3	マイコプラズマ肺炎	↘ 0	3
突発性発しん	↘ 35	57	クラミジア肺炎	→ 0	0

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- 手足口病
- ヘルパンギーナ

● 感染性胃腸炎 報告数:145件(前週:224件)
 地区別:人吉、八代、有明
 年齢別:1歳 28件(19.3%)

● 手足口病 報告数:80件(前週:125件)
 地区別:天草、八代、宇城
 年齢別:1歳 31件(38.8%)

● ヘルパンギーナ 報告数:66件(前週:110件)
 地区別:天草、宇城、水俣
 年齢別:1歳 15件(22.7%)

※手足口病とヘルパンギーナは、県全体で警報レベルを脱しましたが、地域別では宇城、天草が警報レベルにあります。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所		8	6	16	23	13	18		13	1	10	3		11	1	3		
山鹿保健所			7		11	2	1		1		1		*	*				
菊池保健所			1	7	12	4	8		4		8	1						
阿蘇保健所				1		1							*	*				
御船保健所	1				3								*	*				
八代保健所		5	1	2	24		15		5		5							
水俣保健所			1		5	1	2		3		4		*	*				
人吉保健所		3			20	3	5		2		2		*	*				
有明保健所		3	3	1	28	3	6		2		4			1				
宇城保健所			3	3	13	8	9				13	1	*	*				
天草保健所			8	2	6	3	16		5		19							
計	1	19	30	32	145	38	80	0	35	1	66	5	0	12	1	3	0	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上
インフルエンザ	1															1					
小児科定点年齢	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20歳以上						
RSウイルス感染症	19	5	6	6	2																
咽頭結膜熱	30		2	4	6	3	5	1	5	3					1						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	32		1	2	3	1	6	7	7	4	2	4		2							
感染性胃腸炎	145	2	15	28	21	17	16	10	6	4	4	5	8	3	6						
水痘	38		4	7	8	7	5	1	2	3	1										
手足口病	80	2	18	31	13	5	4	3	1		1	1									
伝染性紅斑	0																				
突発性発しん	35		13	18	3	1															
百日咳	1														1						
ヘルパンギーナ	66	2	12	15	13	8	7	4	2		1	2									
流行性耳下腺炎	5			1		2	2														
眼科定点年齢区分	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	
急性出血性結膜炎	0																				
流行性角結膜炎	12		1				2			1			1	1	2	2	1		1		
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70歳以上				
細菌性髄膜炎	1														1						
無菌性髄膜炎	3			1		1				1											
マイコプラズマ肺炎	0																				
クラミジア肺炎	0																				

大きな流行が発生
又は継続しつつある地域

- ヘルパンギーナ:宇城、天草
- 手足口病:宇城、天草
- 咽頭結膜熱:山鹿

【腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう】

腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう

今週は、腸管出血性大腸菌感染症の報告が7件ありました。今年、7月に21件、8月に22件の報告があり、1月からの累計数48件のうち約9割を占めています。乳幼児と高齢者は重症化しやすいため、保育所等では特に注意が必要です。保育所では、この季節、プール遊びにも注意が必要です。特に、低年齢児が使用する簡易プールは、塩素消毒がされていなかったために、集団発生がみられたことが度々報告されています。(遊泳用プールの遊離塩素濃度は、0.4mg/L~1.0mg/Lが望ましいとされています。)

腸管出血性大腸菌感染症は、例年、夏場に多く発生しますが、秋にかけても発生があり、以下の(感染防止のための注意点)を守り、感染を予防しましょう。

《感染防止のための注意点》

- ① トイレの後や調理前に必ず手洗いをする。
- ② 生で食べる野菜などと、加熱する肉などを一緒に調理しない。まな板や包丁などを別々にする。
- ③ 加熱調理を十分におこなう。
- ④ 調理器具を清潔に保つ。
- ⑤ 焼肉等をする時は、肉を焼く箸と食べる箸を別々にする。
- ⑥ 井戸水などのなま水を飲む場合は、必ず沸騰させる。



KKT 医療ナビ! Dr. テレビたん

<http://www.dr-tvtan.jp/>

情報提供: 熊本県健康福祉部 健康危機管理課